

齊藤 泥雪（さいとう・でいせつ）

1、プロフィール

1973(昭和 48)年、俳誌「澁柿園」に入会、代表・斎藤日出於に師事。1974(昭和 49)年、俳誌「草苑」に入会、主宰・桂信子に師事。俳誌「澁柿園」3 代目代表となる。

<生没>

1937(昭和 12)年 7 月 17 日 ~ 2021(令和 3)年 10 月 14 日

<代表作>

ぼんぼりの届かぬあたり桜散る
梅雨深し白墨へらす化学式
城跡の土手に日つよき残り鴨
夕涼み膝に齡の来てをりぬ
大雪のあとの小止みの窓明り

<青森との関わり>

弘前市生まれ。1986(昭和 61)年から 12 年間、「弘前高校鏡陵句会誌」編集を担う。1999(平成 11)年、岩木町中央公民館俳句教室講師を務める。同年、「弘前清水俳句会」を立ち上げる。県内各地域の俳句大会選者として活躍する。

2、作家解説

昭和 12 年月日弘前市生まれ。本名弘行。弘前大学化学専攻卒業。

1974(昭和 49)年、弘前工業高校の職場俳句「澁柿園」に入会、斎藤日出於に師事し、まもなく同人となる。同年、俳誌「草苑」に入会し、主宰・桂信子に師事する。1982(昭和 57)年に「草苑」同人となる。

1986(昭和 61)年～12 年間、「弘前高校鏡陵句会」指導・編集にあたる。1999(平成 11)年に「弘前清水俳句会」を創刊する。2005(平成 17)年、俳誌「草苑」が終刊となり、宇田喜代子らの俳誌「草樹」に入会する。

2010(平成 22)年から2016(平成 28)年に、青森県現代俳句協会副会長(事務局長)、2017(平成 29)年から2019(令和元)年に、青森県現代俳句協会副会長、2020(令和 2)年に、青森県現代俳句協会顧問を務める。

2014(平成 26)年、俳誌「渋柿俳句会」第 4 代代表、2021(令和 3)年、俳誌「渋柿俳句会」顧問を務める。

著書に、句集「雪明り」(草苑俳句会、平成 13 年 12 月 10 日)がある。